

シミュレーションモデル適用事例シート

大分類	道路施設	小分類	交通施設	シミュレーションモデル名	AVENUE		
概要	適用事例名	都市内新物流システムの出入口(デポ)設置の周辺交通への影響評価					
	目的・概要	本事例は、環状7号線上馬交差点付近に都市内新物流システムの出入口(デポ)を設置した場合に周辺交通へ与える影響評価を行うことを目的とする。					
	本事例におけるモデル適用上の特徴						
対象範囲及びネットワーク	対象範囲	環状7号線 上馬交差点～野沢交差点(1000m)		対象時間帯	平日 11:30～13:30		
	評価対象時期	都市内新物流システム実現時					
	対象道路網	環状7号線および接続道路					
	ネットワーク規模	ノード数	10	リンク数	9	起終点ノード数	5
		一般街路ネットワーク		交差点数	3	信号交差点数	3
		自専道ネットワーク		分岐部数	—	出入口数	—
	特記事項						
<p>(ネットワークの概略図面を添付)</p>							
入力データ	道路データ	単路部	リンク長、車線数、リンク容量、ジャム密度、自由流速度				
		交差点部	飽和交通流率、右折専用レーン長、交差点内滞留台数				
		合流部					
	信号制御	設定パラメータ	信号現示、オフセット				
		作成方法	実測データを用いる				
	交通需要	設定単位	OD 交通量				
		作成方法	現況交通量: 平成6年道路交通センサスより推定 DMT(デュアルモードトラック)交通量: 現況交通の転換対象車種から所与の計画台数(200台/時、400台/時)を転換				
空間単位		道路端点およびデポ					
時間単位		1時間単位、2時間					
車両属性区分	小型車、大型車、DMTの3種類						
その他							
モデル設定項目	スキャン方式	periodic scan 方式, 1秒/1スキャン					
	パケットサイズ	1台/パケット					
	経路選択原理	固定経路					
	特記事項	経路選択の余地のないネットワーク形状					
再現性検証	キャリブレーション	パラメータ	各交差点流入部の飽和交通流率				
		方法	飽和交通流率を 1800veh/h、1900veh/h、2000veh/h の3ケース行う				
	検証方法	現地調査の結果、車線ごとにかかなりのバラツキがあったため、3ケースについての感度分析を行った					
検証用データ取得方法	現地調査により飽和交通流率を車線ごとに測定						
出力データ	1)環状7号線の区間毎の旅行時間						
記入者	所属機関・部署 (株)熊谷組 土木本部 社会システム部 交通システムグループ						
	電話	03-5261-5526	FAX	03-5261-9350	HP	<a href="http://www.kumagaigumi.co.jp/feature/its/escote.html">http://www.kumagaigumi.co.jp/feature/its/escote.html</a>	
公表文献・資料等							